

令和8年度第1回川崎市介護保険運営協議会・地域包括支援センター運営協議会
・高齢者保健福祉計画等策定推進委員会合同会議 会議録

1 日時 令和8年5月11日（月）午前10時～12時

2 場所 川崎市役所本庁舎 203・204 会議室

3 出席者

（1）川崎市介護保険運営協議会・地域包括支援センター運営協議会委員

（出席 17名）

竹内議長、石橋委員、遠藤委員、大沼委員、小野田委員、片山委員、佐川委員、
佐野委員、篠田委員、志村委員、出口委員、天童委員、平山委員、邊見委員、
星野委員、水谷委員、森本委員

（欠席 5名）

石山委員、原田委員、宮尾委員、八木委員、湯本委員

（2）川崎市高齢者保健福祉計画等策定推進委員会

（出席 17名）

【外部委員】

青木委員、久々津委員、下垣委員、鈴木委員、手塚委員、西之坊委員

【行政委員】

中村長寿社会部長、菊川高齢者事業推進課長、村上高齢者事業推進課担当課長、
清水高齢者在宅サービス課長、平野介護保険課長、菅野地域包括ケア推進室長、
滝口地域包括ケア推進室担当課長、永井地域包括ケア推進室担当課長、
竹田地域包括ケア推進室担当課長、國米健康増進課長、塚田企画・連携推進課長

（欠席 3名）

柴田委員、大澤地域包括ケア推進室担当課長、島田住宅整備推進課長

（3）川崎市

福田市長

鹿島健康福祉局長

（4）事務局

健康福祉局高齢者事業推進課 竹田課長補佐、金澤主任

4 傍聴者 0名

5 議題

（1）第10期かわさきいきいき長寿プラン策定の概要について

（2）分科会・部会の設置について

（3）計画策定スケジュールについて

（4）令和7年度高齢者実態調査について

（5）その他

6 主な発言内容

議長挨拶

私はこの会議は0期から関わっているような気がする。1998年に介護保険制度準備委員会ができて、その委員長からスタートし、2000年の介護保険運営協議会、同時にこの合同会議の座長を務めることとなった。この会議では、今回、第10期計画について皆様と議論しようとしているが、第9期までの方が華だったような気がする。年々歳々、市町村では人口が減り、相対的に高齢者が増えて、独居高齢者の問題がとても深刻になってきている。また、認知症については、相変わらず解決の方向性が見えない。高齢者の保健福祉を取り巻く盤石だと思っていた医療についても、近年は先行きへの不安が指摘されるようになっている。医療・福祉・保健を取り巻く環境が変化する中で、人口構造の変化への対応も求められている。

率直に申し上げるが、第10期から絶望の時代に入るかもしれないと感じている。我々も相当の覚悟を持って、その中で何か救いにつながるようなものがないか議論していきたいと思っている。川崎市では要介護度が改善すると報奨金があるが、そのようなキラッと光るものをもっと見つけるなど、将来につながるようなものを皆さんと一緒に作っていけばよいのではないかと感じている。

第10期というのはそのような試行錯誤的なものが鍵になるのではないかと感じているので、皆さまから忌憚のないご意見をいただき、川崎市の取組の発展につながる議論にご協力いただきたい。

(1) 第10期かわさきいきいき長寿プラン策定の概要について

質疑応答なし

(2) 分科会・部会の設置について

質疑応答なし

(3) 計画策定スケジュールについて

質疑応答なし

(4) 令和7年度高齢者実態調査について

下垣委員	私は認知症分科会に所属している。継続して行われているものなので仕方がないと思うが、このデータから認知症施策につながる課題を抽出することは難しい印象がある。今後、推進施策につながるような分析や考察を行う予定があれば教えていただきたい。 また、データからひとり暮らし高齢者の支援において何が課題になっているのかという部分が読み取りにくい。クロス集計を行っている部分とそうでない部分があり、これで見える限りは病気についての啓発しか見えてこないが本当にそれでよいのか。各区の課題に集中してクロス集計を行った形で、追加で分析した方がよいのではないかと。 回答については、1点目の認知症関連についての考えについてお聞かせ願いたい。
竹田地域包括ケア推進室担当課長	この調査だけをもって認知症施策全体の基礎データを見ていくというのは、現実的ではないと思っている。これはエビデンスの1つとして取り扱いつつ、その他にも市内で取れるデータであったり、全国データや学術的なものなどを総合的に活用したい。データだけではわからないところについては、委員の皆様のご意見を伺いながら進めていければと考えている。
出口委員	これから展開される分科会への意見として発言する。コミュニティバスの必要性が報告書にある。市民の中には移動スーパーが地域によって盛んになっているところがあり、大型店舗にはなかなか行けないが、近くにあれば買い物に行き選ぶ楽しみがあり、いろいろな予防施策にもなると思う。そういったことを踏まえて、市民から身近で必要だという声も挙がってきているということを知っているため、検討のひとつにしていただければと思う。
滝口地域包括ケア推進室担当課長	施策の中で民間との連携を広げていこうと考えている。その中に移動販売があり、最近では宮前区や麻生区、高津区など、山坂が多いところで徐々に広がってきている。民間との連携で、どういう地域で買い物資源が不足しているか、要支援の方がどの地域に多いのかなどを重ね合わせて分析しながら、要支援の方が比較的多くて買い物資源が足りていないところについてはデータを分析しつつ、現場の声を聞きながら、民間と連携して資源の充実について進めていきたい。
小野田委員	今回のアンケートで多くの問題点が示されているが、個別の問題について質問する時間には限りがあると思う。行政として対応可能な内容がある程度整理した上で、専門の方に相談しないと難しいところを分科会などで抽出していただきたい。
星野委員	包括的に調査されているため、個別に質問をすることは差し控えたいが、この結果を前回の第9期計画と比較してどのように評価するか、どのように今後改善をしていけるのかというのが大事だと思う。 報告書 184 ページでは、特別養護老人ホームの入居申込みをして1年未満の割合が、前回調査より大幅に増加し3割を超えているという。確

	かに高齢化が進み1年未満の割合が増えていることは了解しているが、男性の健康寿命が川崎市は72.09歳、女性が75.03歳である。健康寿命の前にフレイルの状態が来ることを考えると、フレイルにあたるだろうという直前のところが1年未満はゼロになっている。男性が65～69歳、女性が70～74歳は1年未満がゼロになっているのであれば、どういう統計なのかと不思議に感じた。このような箇所がいくつかあり、統計的なデータを今後どういう形で改善をしていくか、非常に難しい側面があると思うがどう考えているか。
菊川高齢者事業推進課長	特別養護老人ホームに入る方の状態像は要介護3以上で、要介護1・2の場合は認知症等の特別な事情がある方が入居している。ここでは、65歳代の層が比較的少ないことも要因ではないかと思う。ご指摘について、細かく数値の内容を見ていかなければいけないと思っている。今後は分科会も控えており、クロス集計についてのご意見もあわせて、皆さまから頂いたご意見などは、個別に詳細に見ていかなければいけないと思っている。
竹内議長	実態調査は我々が手にする唯一の市民のニーズなので、これ以外に市民が何を考え、どういうことを求めているか知るべきがない。非常に貴重な情報が入っているため、これからの分科会・部会の議論の中で、このデータを委員の皆様自身が咀嚼した上で活用していただきたい。 介護離職といえば、制度ができて介護休業取得が盛んに行われているが、あまり効果がないことがはっきりしている。また、東京都では介護離職はいつ発生するのかという話がなされており、東京都での調査では、親が要介護状態になると大体半年以内に半数が離職するという結果も示されている。非常に早い。手を打つ暇があるのかということもあり、介護休業を申請して待っている間に離職する実態もある。親の介護をすることになってからどのくらいで離職したかという調査をしないといけないが、そういうものは入っていない。しかし、介護離職を匂わせるようなデータはあり、どんな介護をしていて、精神的に、身体的に耐えられないという人がどのくらいいるのか、その原因は就労や環境の変化などで、本人としては就労しているから大変になっており、就労を辞めてしまおうという1つの大きな選択肢になっている。 また、介護者の中で施設入所を家族で検討しているかという質問がある。検討していないとすると、選択肢を考える必要がある。なぜ追い詰められているのに施設に入ることを検討しないのかという点も、この調査から読み取ることができる。そうした観点も踏まえ、この調査結果には今後の施策検討に有効な示唆が含まれている。私は前から、各委員会では基礎資料として委員のデスクに報告書を置いてほしいと言っており、そのくらい貴重な内容である。

下垣委員	他の自治体でもそうだが、行政の計画は実施してどうだったか効果測定を考えるべき。私たちが考える事業を展開した効果は、まさにここにあるのだと思う。利用者の方が直面している課題や事業所についての実態がここにあり、それぞれの分科会は、プラスに変わるところや減るところなど、目指すものを何か考えながら明確にしながら議論をした方がよいと思う。よくある計画などでは利用者の人数や開催回数で効果測定をしているが、本来の効果とは生活が変わる、意識が変わることだと思う。いろいろなヒントがここにたくさんあることを、竹内先生のお話を聞いていて改めて痛感した。我々委員は、そこを意識しなければいけないと思った。
竹内議長	川崎市の高齢者実態調査は、同じ項目をずっと調べる、社会調査の中で最大の特徴を持っている。おそらく全国の自治体の同種類の調査では、川崎市しかない。昔は東京都もそうだったが、最近の調査では市民の意向が一貫してどういうところにあるのか非常に見えにくくなっているため、これは他の市町村に自慢できる資料だと思う。 社会福祉関係のオーソリティであった三浦文夫先生が、東京都の社会審議会で一貫してそれを主張しておられた。三浦先生が川崎市のこの種の委員会を主宰するようになってからも、同じスタンスであった。この調査は三浦先生の遺産のようなもので、前はどうだった、今はこうなっている、少し変わってきているという流れをつかめる側面を持っている。

(5) その他

- ・ 社会保障審議会介護保険部会における介護保険制度の見直しに関する意見（概要）について
- ・ 川崎市総合計画の改定について（高齢者施策関連部分）

下垣委員	総合計画の高齢に関する話として受け止めた。総合計画では書き方が難しいと思うが、高齢のことだけが独立しているわけではないので、他のところと連動するところは何か、明確に絞って出す方がよいのではないかと思う。例えば、災害に対する問題はきちんとやっていると思うが、それが高齢の話とどうつながってくるかというところもあり、総合計画の高齢だけを引用するのではなく、他のところとどこがつながり、地域の実情などを川崎市は十分踏まえていると示すのではないか。 先ほどの資料では、よく読めば全部地域としてきちんと考えましょうというところを言っているが、地域包括ケアシステムの深化などで状況や地域について触れているだけでなく、本来は自治体ごとに地域特性を踏まえていろいろな事業を展開するところでは、いろいろな数字など見方はあるが、実情は市の特性を踏まえていろいろなことをやっていることもある。その内容と高齢の話をつなげようということが見えたらよいと思う。ご検討いただきたい。
------	--

出口委員	介護保険制度の見直しに関する意見について、社会保障審議会では相談支援のあり方ということで今後、川崎市が展開する上でのご意見として申し上げる。ケアマネジャーの法定外業務、いわゆるシャドワークについて、地域課題として議論できるようにということで地域ケア会議が充実していくであろうという記載がある。その充実の部分で、抽出した課題をどう解決していくか、課題を解決するためにはどのような施策につなげられるのか、施策に何かつなげられるのかということまで考えられるような体制ができないと、課題だけは挙がるもののいつまでも解決できないことになり得るため、検討していただきたい。
平山委員	総合計画 2 ページ目「成果指標」のうち、高齢者の生活を支える取組への協力事業者数は、11 年度までに格段に増やす目標が掲げられている。現状ではどのような分野の考え方を市が持っているのか、教えていただきたい。
滝口地域包括ケア推進室担当課長	この取組による成果指標に該当する案件は高齢者の生活を支える広範にわたるものと思っている。先ほどの買い物を支える資源としての協力事業者も大切であり、日頃の見守りで支えている事業所もある。現状値の 90 事業所は、地域見守りネットワーク事業という、異変があったときに区役所の方へ連絡を頂く事業所の数である。60 事業所増やしているのは、現在の 90 の数が見守りという観点で協力いただいている事業所数であって、先ほどの買い物を含め様々な面で生活を支えていくことに協力いただける事業所を増やしていきたいと考えており、専門職の支援のみならず民間企業を含めて、どう高齢者の生活を支えていく資源を増やしていけるかがこれから大事になると思っている。60 事業所以上という数値目標に限らず、多様な民間事業者との連携を広げていく考え方である。
平山委員	高齢者だけではなく、支えていく地域包括ケアシステムを展開するためには、いろいろなところが幅広く協力し、同じ意識を持って進めていく必要があると思う。今までの関わりで、例えば買い物支援などは同じつもりであり、具体的な構想があればとお伺いした。
滝口地域包括ケア推進室担当課長	具体的なところでは、最近では運動や介護予防の観点で、高齢者の生活を支えていく協力をしたいという声を頂いている。60 事業所はどこということはまだ示すことはできないが、少しずつ協力を促して、協力いただける事業者数を増やしていきたい。買い物や予防的な観点で協力いただける事業所は増えるのではないかと考えている。

閉会

7 次回日程 8 月開催予定

分科会の開催については各所管課から連絡

⇒後日、次の日程で確定した旨各委員へ連絡

【第 2 回合同会議】

令和 8 年 8 月 18 日（火） 14 時 00 分～ 16 時 00 分

【第3回合同会議】

令和8年10月16日（金） 10時00分～12時00分

【介護保険運営協議会】

令和9年1月20日（水） 14時00分～16時00分

【第4回合同会議】

令和9年3月17日（水） 14時00分～16時00分